

2005年

第17回八大学 OB 大会

菱

RYOU

目 次

1. ご挨拶	大会会長	酒井 克臣.....	3
2. 年度報告			
8大学ラグビーOB 大会結果報告	大会実行委員	土橋 真人.....	5
平成17年度会計報告	会計幹事	徳江 敬一.....	9
3. 記念写真			
八大学ラグビー大会<明治丸前芝生で全員、北大vs九大>			11
八大学ラグビー大会<帯畜大vs名大、東北大vs小樽商大>			12
八大学ラグビー大会<海洋大vs長崎大、Over40>			13
八大学ラグビー大会<試合と子供たち>			14
八大学ラグビー大会<元気なオジサンたちの奮闘ぶり>			15
八大学ラグビー大会<試合中と懇親会のスナップ>			16
水谷 眞氏 講演会			17
4. トピックス			
水谷 眞氏講演会記録「ワールドカップ招致運動、トップリーグエトセトラ」			
小樽商大	1967 年卒	酒井 克臣.....	20
5. 各大学投稿			
鎖骨骨折	北大	1980 年卒	川端 亮二..... 25
ラグビーとの出会い	東北大	1962 年卒	岩間 章..... 27
ネンリンピック	小樽商大	1971 年卒	佐藤 貞直..... 30
偉大なる赤パン	東京海洋大		蓮見 正樹..... 34
背中を見て	九州大学	1971 年卒	丸田 堅次..... 36
北海道で優勝を目指す	帯広畜産大	緑白クラブ 38
FOOTBALL への拘り	名古屋大	1977 年卒	浅野 利三郎..... 40
西陵ラグー全国組織化			
ご紹介	長崎大	1970 年卒	伊藤 正..... 43
6. 編集後記	九州大学	1971 年卒	丸田 堅次..... 45

ご挨拶

大会会長 酒井克臣(小樽商大昭和 42 年卒)

第 17 回八大学ラグビー親善大会は昨年の秩父宮開催から引継ぎ、「新たな出発地」として江東区越中島の東京海洋大学のグラウンドで開催されました。現役の部も OB 会も合併され新たな船出をされた海洋大学のキャンパスは「新たな出発」に相応しい会場となりました。とはいえ、越中島は旧商船大のキャンパスでもあり、準備、運営に戸惑う事も多く、ご参加いただいたみなさまにご迷惑をお掛けしたことお詫び申し上げます。ことに受け入れの窓口となっていたいた賞雅先生(海洋大)には何かとお世話になりました。お礼申し上げます。また第 1 回より第 15 回まで慣れ親しんだ千葉や調布の NTT グラウンドの使用に長い間お骨折り頂いた NTT 関係者、とりわけ児島先輩(北大)に改めて謝意を表します。

大会は例年同様和やかな雰囲気で行われましたが、怪我人も多く出て、試合を前にした身体と気持ちの準備運動が十分にできたかどうか、反省材料です。また、年代が近いメンバーでのゲームをと願うのですが、参加人数が十分ではないのでうまくいきません。幅広い年代にまんべんなく多数参加いただけるようにしたいものです。このためにはみなさまの口コミで広げていくしかありませんので、今後もどうかよろしくお願いします。

今大会は 256 名もの参加をみた秩父宮の翌年ということでふあんでもありますが、結果的には 184 名の参加者で一安心いたしました。ご協力いただいた皆様、大会のレフェリーを務めていただいた日本協会の谷口様、関東協会の鈴木様に感謝申し上げます。

今後も北海道から九州までの大学 OB の親交を深めていくこの大会の発展のために、みなさまひとりひとりが盛り上げていただくよう祈ります。

以上

2005 年度報告

8大学ラグビーOB大会結果報告

大会実行委員 土橋真人(小樽商大平成元年卒)

2005年5月22日(日)、第17回8大学ラグビーOB大会が開催されました。

今年は小樽商大が幹事校でした。ここ数年、本大会のマンネリ化防止のため、幹事校・各校幹事としてはいかに大会を盛況に開催できるか、特色があつて参加したくなる大会にできるか悩ましくなってきました。昨年の秩父宮ラグビー場での開催という大きな目玉があつた翌年であるだけに、今年は企画段階からアイデア出しが行なわれ、以下の点を意図した大会としました。

- 開催場所の一新 : 参加しやすいように
- 試合の充実 : 参加者が試合に参加しやすいように
- 「菱」のHP化 : 経費削減
- 家族向けイベント : 参加家族にも楽しめるように
- 地方名物の特別販売 : おいしかったものを後でも楽しめるように

結果について簡単に記します。

1. 参加者

昨年の秩父宮開催の翌年ということで、参加人数を心配しておりましたが、今年も各校より大勢の参加者がきてくださりご家族含め総勢183名参加の大会となりました。ご参加くださいました方、ありがとうございました！

2. 東京海洋大学越中島グラウンド

昨年8大学のメンバーの東京水産大学(旧名)と、東京商船大学(旧名)が合併して東京海洋大学となり、東京都江東区越中島の旧東京商船大学側のグラウンドをお借りすることができました。芝(草?)のグラウンドであり、なかなか良いグラウンドでした。これまで長年開催された千葉のNTTグラウンドと比べて都心に位置しており、アクセス(JR京葉線、地下鉄東西線が近い)がよい開催地となりました。

3. 試合結果

レフェリー 谷口 弘 氏 (日本協会)

鈴木 正史 氏（関東協会）
出村 泰樹 氏（小樽商大 OB）

(1) 第1試合(谷口RF)

小樽商大 0 : 24 東北大
0 : 36
計 0 : 60

(2) 第2試合(鈴木RF)

長崎大 0 : 5 東京海洋大
14 : 0
計 14 : 5

(3) 第3試合(谷口RF)

Over40 紅軍 14 : 17 Over40 西軍
14 : 7
計 28 : 24

(4) 第4試合(鈴木RF)

帯広畜産大 0 : 14 名古屋大
7 : 19
計 7 : 33

(5) 第5試合(出村RF)

北海道大 17 : 7 九州大
24 : 7
計 41 : 14

4. 事件

(1) 大会中に以下の事件(?)が発生しました。

その1: 試合開始から1時間、警察官が来ました。近所から「うるさい」との苦情連絡があったとのことです。弊大会は、純粹に試合をしていたため、特に警察と問題とはなりませんでしたが、グラウンドは住宅地に囲まれており、今後の課題となると思われます。

その2: 上記のとおり、グラウンドは住宅地(大学官舎)に囲まれており、防護フェンスが張られてますが、キックしたボールがフェンスを越え、窓ガラスを割ってしまいました。当時、被害宅(大学の先生)は留

守にされておりましたので、後日お詫び申しあげました。

(2)また今大会では、残念ながらなんと4回も救急車を呼ぶことになってしまいました。

怪我への対策(参加者の準備対策、および事故に対する万全の体制)も今後の課題となります。

5. 家族・子供向けおみやげ・イベント

参加くださいましたご家族、奥様には化粧品、子供たちにはお菓子のプレゼントが配られました。

また毎年大勢の家族も来られるので、今年は家族向けのイベントとして子供向けの「かけっこ大会」を実施しました。

* 優勝者

- (1)幼稚園・小1の部(混成) : 土橋君
- (2)小学校低学年の部(男子): 貫井君
- (3)小学校低学年の部(女子): 出村さん
- (4)小学校高学年の部(混成): 北浦さん

6. 懇親会

懇親会場は、大学キャンパス内に位置する明治丸(船)前の広場で開催されました。かなり広い芝の広場となっており、優雅な帆船を目の前にした芝の上で飲食は爽快でした！

残念ながら懇親会の後半に雨が落ちてきて早々に終了しましたが、例年同様参加者のみなさまに喜んでいただけたものと思います。

ー懇親会内容ー

①美園のアイスクリーム

小樽名物の一つとして創業1919年の美園のアイスクリームを紹介しました。(なんと美園さんの息子さんも小樽のラグビースクールに通っているとのこと)

関東に出店がないため、「小樽からの直送」という大胆な試みでしたが、午前に着き、懇親会でも十分にそのおいしさを満喫できました。

②小樽ワイン

この10数年で、すっかり有名になりました小樽ワインの赤・白をそろえました。

③たらこ

北海道のたらこをタップリ使用した、たらこスパゲッティが大量に出ましたが、すっかり平らげられておりました。

また、生たらこの手巻きも準備しましたが、たらこだけでも皆ぱくついておりました。

④かに

今年も恒例のかに(東京海洋大OBからの寄付)がたっぷりありました。

⑤飲物

今回の大会では、飲み物の寄付を各校のOBより大量にいただき、冷却用の子供用ビニールプールから溢れておりました。ご寄付いただきました多数のOBの方、ありがとうございました。

⑥食べ物(全般)

今年は深川スポーツセンター内のレストラン「穂乃」さんにケータリングをお願いしましたが期待以上の食事を提供してくれました。

以上、今年の8大学ラグビーOB大会の結果報告です。

八大学ラグビーOB会平成17年度会計報告

<収入の部>		<支出の部>	
項目	金額	項目	金額
前期繰越	349,834	第17回大会運営費	426,942
第17回大会会費	518,000	●事務用品・試合用用具他	62,752
●参加者 167人×3,000		●スポーツ保険	24,210
●家族等 17人×1,000		●レフェリー車代	20,000
		●海洋大グラウンド整備費用他	25,000
講演会・懇親会(12月7日)	159,000	●懇親会費用	266,561
●参加者 53人×3,000		●ガラス破損弁済費用	28,419
懇親会2次会剰余金	1,740	講演会・懇親会運営費	186,055
		●講師車代	30,000
寄付金・口座新規開設時預け金	5	●緑丘会館・会場代・飲食代	152,450
(小樽商大 土橋氏)		●スクリーン他借り賃	3,000
		●DPE代	605
		次期繰越	415,582
合計	1,028,579	合計	1,028,579

平成17年度会計担当 徳江 敬一
(小樽商大)

上記内容は平成18年2月8日の幹事会にて、
伊藤 正(長崎大)吉永辰雄(海洋大)両氏の
監査を受け承認されています。

大学名	17回大会		年末講演会
	参加者数	家族	参加者数
北海道大	20	2	3
帯広畜産大	20	2	4
東北大	20	4	5
東京海洋大	22		7
名古屋大	15	1	5
九州大	10	2	7
長崎大	36	3	6
小樽商大	24	3	16
合計	167	17	53

記念写真

＜明治丸前芝生庭にて＞



＜北大vs九大＞



＜帯畜大vs名大＞



＜東北大vs小樽商大＞



<海洋大vs長崎大>



<Over40. . . 元気なオジサンたち>



<試合と子供たち>



＜元気なオジサンたちの奮闘ぶり＞



<試合中・懇親会>



水谷 眞氏 講演会

2005 年 12 月 7 日(水) 小樽商科大「緑丘会館」にて





トピックス

講演会「ワールドカップ招致活動、トップリーグエトセトラ」

講師 水谷 眞 氏

関東ラグビーフットボール協会理事長・

トップリーグコミッショナー他

講演内容(要約)

自己紹介から始まりワールドカップ招致の裏話やトップリーグの現状など興味深い内容に引き続き、自身の目黒高校でのラグビー事始めから法政大学、リコーと当時の黄金時代のチーム仲間との間のこぼれ話など、飽きさせない軽妙洒脱な語り口で参加者の耳をそばだたせた。以下に内容を要約する。

① ワールドカップ招致活動

自分も招致委員の1人であったし(故)町井さんの後を受けた森会長中心に積極的に活動をしたが残念な結果になった。(投票の経過の説明後)次回招致のために既に招致プロジェクトチームも発足したし、なんとかしたい。

しかし、一方では繰り延べになってもよかったと思う面もある。今回はサッカーで使用したグラウンドでワールドカップ開催ということにしていたが、折角なら日本のいたるところにラグビー場が建設されそれが残るぐらいの計画にしたい。

② トップリーグの現況

サッカーに比べ 10 年遅れているといわれる危機感から発足したトップリーグだが、2 年目を迎え、接戦が多くいいゲームが展開されているが来場客が少ない。雨や雪という悪天候の要因もある。現在三洋が全勝で面白い展開で盛り上がっている。三洋の好調の秘密は？部解散の危機感か(笑)。来年からチームを二つ増やし 14 チームとなる。今年は自動降格は無いが入れ替え戦がある。まさか下のチームに負けるとは思わないが一発勝負では何が起きるか判らない。ラグビーは 80 パーセントぐらいはハートだから。なんといっても目黒高校、梅木さんの教え子だから(笑)。

■ リコーへ入社したのもラグビーのおかげで、45 年から 50 年まで連続で社会

人の決勝へ進出し、3回優勝し、2度の日本選手権をとれた。相手は47年が明治、48年が早稲田。37年間勤めて定年を迎えたが、好きなラグビーをやれた上に仕事もやれ、また次ぎの会社に引っぱってもらった。ラグビーとの出会いが今日に至っている、ありがたいことだ。

その出会いは目黒高校。

③ 目黒高校時代

当初目黒高校では陸上競技をやっていた。当時目黒は陸上王国である飯島がいた。彼をはじめ10秒台で走る人が4～5人いて、短距離を諦めていた時に、それまで顔を合わせるたびに誘われていた梅木監督に勧められてラグビーを始める事になった。

最初の試合は国学院久我山との練習試合、何も経験のない自分が「ボールが来たら走れ」と言われ2本ぐらいトライしたら、皆が喜んでくれる。それまでは0.1秒早い記録を出しても誰もなにも言ってくれなかったから、不思議な感じを受けた。全然違うスポーツと出会ったなと思った。また監督に「真っ直ぐ走るばかりじゃなくて逃げろ、ラグビーは鬼ごっこみたいなものだから」と云われ、その日は4～5本のトライをした。試合を終え家に帰ると、驚く事に監督が居て親父に「こいつはきっと全日本になる」といって説得していた。

結局ラグビー部に入る事になったが“まさか、ラグビーをやる事になろうとは”。これが自分の人生を大きく変えることになった。

高校では東京の決勝で島崎のいた保善に負けた。

④ 法政大学時代

大学へ行くつもりはなかったが、梅木さんに勧められ法政へ行くことに。当時の法政は強い時代で（伊藤さんが卒業したばかり）、前年は優勝していた。入ってみると、45人の新人がいたが、付属以外の外から入ってきたのは私を除いてみな花園出場組みと凄いメンバーだった。

1年から島崎、桂口と共に“3ばか”がレギュラー入り。シーズン前の夏合宿時点では新聞に“今年も健在、法政。不安材料ただひとつ、伊藤の穴を埋められるか？新人ふたり”と揶揄されたが、なにくそと走りまくった。いいメンバーに囲まれ1年目は早稲田を下し、第1回大学選手権で優勝。2、3年目は早稲田に負けたが、4年目は、終了3分前8－8の同点の場面で、脳震盪を起こして記憶の無い私が桂口から島崎を経たパスを受けてトライを、これ

が決勝点となり優勝する事ができた。石井監督を胴上げしながら、人生は自分の思いで変わっていくのだなと感じた。登り坂も下り坂もあるけど“まさか”がある。まさかを活かしてここまで来られた。

大学院へ行き、それからの人生は“すし屋”をやろうと思っていた。動機は少々不純だったが……。当時目黒高校の指導もしていたが、全国優勝を遂げたのでお役後免にしてもらって、いよいよ“すし屋だ”と張り切ったところに、先輩の伊藤さんがリコーへ来いと誘いにきた。

⑤ リコー時代

日本一を目指してメンバーを集めていた伊藤さんは、大学日本一を達成したのでもういいですと辞退しようとした私を、八幡と近鉄に負けて真の日本一を取っていないと諭された。日本一を取ってからすし屋になるのも悪くないかと思い、日本一になったら辞めるという条件でリコーに入社した。

その年(昭和 45 年)に社会人の決勝で富士鉄釜石と当たった。それまでの試合でリコーは有名選手を集めているものの纏まりが無いと評されていたので、皆で決勝ではまとまろうと話したがその意識が災いしてか、ガツガツ行かず点数が取れずに引き分けてしまい、日本選手権への出場を逃した。それで辞めることができなくなった。

翌年(昭和 46 年)は社会人の準決勝で大接戦の末に近鉄に勝ち、決勝は予想外のトヨタを破った三菱自工が相手となった。楽勝と思ったらコテンパンに叩きのめされた。

翌 47 年はまた三菱と闘い打ち破り、その翌年は坂田さんのいた近鉄を3-0で破った。楽しい、厳しい試合の続く「近鉄リコー時代」であった。

⑥ トップリーグ

ラグビーをやってきたおかげで皆さんとも会えるしとてもよかったと思う。会社で仕事をきちんとしてラグビーもするというのが良いと思うし、そのほうが格好良い。女性にももてる。終業後の夜の練習を終えてまた仕事に戻る奴もいたりするというふうにちゃんとしごとをしていたので、会社の仲間も支えてくれるし、応援にも来てくれた。今はトップリーグになり、プロ化してきているので、練習は午後からというチームが多い。個人的にはラグビーしか知らずに現役を終えるより、仕事も覚え会社に残れるほうがいいのではと思うし、仕事に専念し要職に就いてバックアップにまわる人もいなくなるかもしれ

ないと考えると怖いものがある。しかし、もう後戻りはできない。発足したトップリーグを成功させたい。ラグビーはナマが一番、是非足を運んで欲しい。ご存知のようにラグビーの魅力はいっぱい。激しいプレー、ノーサイドの精神、最大人数の球技をコントロールするレフェリー等々。

⑦ イギリス駐在の体験

（海外遠征時の笑える？笑えないようなこぼれ話の続出のあと）リコーがイギリスに進出するのに合わせて家族ぐるみで海外生活をするようになった。家を探すにあたり、「まわりに日本人がいない」「日本では住めないような家」さらに家に居つづける女房のために「幸せを感じられる家」を条件としたが、上手い具合に格好の家が見つかった。

が、会話ができないため……（逸話の連続、たとえば）クリスマスの際ご近所さんから誘われ、次々に「YES」と訪問を約す。女房が断ればいいのにというけど「NO」というと何ゆえかと説明しなければいけないのでそれが煩わしい。結局いくつものご近所さんをはしごするはめになってしまった……。

いろいろ大変な事はあるのだけど、積極的に立ち向かっていけば道は開けるということを体験した。

以上

<記録 酒井克臣(小樽商大)>

各大学投稿

鎖骨骨折

昭和 55 年 北大卒 川端亮二

ラグビーに興味を持ち始めたのは高校の頃で、当時は横の早稲田、縦の明治と対症的なチーム同士のゲームや、特に、小柄な身体で活躍していた宿沢選手への憧れが大きく、高校時代はできなかったが、大学入学早々、ラグビー部に入部した。初めて親元を離れて(横浜→札幌)の一人暮らしなど慣れない生活ではあったが、何とか四年で無事卒業できた。卒業後は、勤務先でラグビーができる環境であったため、暫くは楽しめたが、転職を機に勤務先が北海道、東北と何れも地方であったため、その後はプレーする機会が少なくなった。6年前に転勤で埼玉県に戻ってきた際に、後輩(阿部)の勧めで不惑倶楽部に入った。ほぼ毎週ゲームがあり、熱心な方々は、毎週参加で、元気にプレーし、ゲームの懇親会でも楽しく酒を酌み交わし、ラグビーをエンジョイしている。小生はといえば、家庭、仕事等の状況優先で、適当に都合の良い時に参加する程度であったが、運動不足解消、仕事のストレス発散、仕事以外(他業界の)の人との交流を深めるなど、一石二鳥以上の機会であった。又、昨年1月から紺パンツになり(50 歳代チーム 実年齢は 48 歳だが、不惑は数え歳カウント)、紺パンでは若い方であるため、比較的活躍の場が広がり、トライチャンスも増えてきた矢先の骨折であった。

それは、昨年 11 月に群馬不惑とのゲーム際に、後半半ば頃、相手ディフェンスを抜きにいった時に、左右両方からタックルされ、右肩から地面に激突し、その衝撃で骨折。但し、このときは、打撲のひどいもの程度と思いゲームも最後までやり、ゲーム後の温泉(これが楽しみでわざわざ群馬県の渋川まで行ったのだが)、懇親会、帰りのバス内での宴会と、ちょっと痛みがあったが普段のペースで飲んでいた。翌日、腫れ、痛みがひかないので、近所の整形外科へ寄ってから出社しようと、診てもらったところ「鎖骨骨折」と言われ急に痛みが増したのを覚えている。さすがに出社する元気がなくなり、その日は会社へ連絡し休暇とした。まさか折れているとは思っていなかったので、驚きと同時に、ショックであった。

仕事の都合もあり、手術はその週末とし、結局5, 6日入院してしまった。職場の反応は、それほど厳しくなかったが、やはり「いい歳(?)なのだから、そろそろ潮時では」との声が多かったように思う。確かに会社に迷惑、仕事に影響を及ぼすことは大いに反省に値するが、個人的には、「なぜ無理に抜きにかかったのか、ポイントをつくるような当たりをしなかったのか」など、あの一瞬の後悔の念の方が大きい。

現在は、月1回レントゲンで骨の接合状況を診ているが、歳のせいかわたしに繋がっていないため、チタンのプレートが身体に入ったままである。今回の怪我で一番心配をかけたのは、家族や親であり、まさかこの歳でラグビーで骨折するなど、本人は勿論、周りの人間も想像もしていなかったことである。この骨折が治っても、暫くは健康第一で、怪我前の体力まで回復するよう適度な運動でリハビリを実施しようと考えている。ラグビーを再開できるか否かは、そのときの周り(家族、親類、会社)の雰囲気を知り、できればまた楯圓球と戯れたいものである。

ラグビーとの出会い ——楽・苦・備から楽・苦・美へ——

東北大 昭和37年卒 岩間 章

当校東京OB会の怖い軍曹、薬袋くんから陵への寄稿を言われこの所毎年恒例の行事で愉しませて頂いていることもあり、とりとめのない話と、思い出話は老化の始まり現象ではあるがご容赦頂きたい。ラグビーとは不思議な出会いから15年間夢中になった後キッパリと別れ、数年前から8大学OBラグビーの集いで再び興味(見物のみではあるが)を覚え出しているこの頃である。仏でのワールドカップに向け日本のラグビー界が熱くなって行くことを期待している。

楢円球との出会いそして8大学OBの一人に

大学入学の春、サッカー一部への入部のつもりで評定河原グランドへ出向いたらサッカー一部の練習は無く、ラグビー部の練習日であった。暫く眺めているとK先輩が近づいて来て新入生すか少し遊んでいがすかと汗臭いジャージとボールを貸してくれたのが楢円球との最初の出会い、その後一番丁にでも飲みに行くか、酒を飲まされたのが未成年の法律違反もあり、その後の楽苦備の身の始まりであった。

楽

そして4年間先輩、同輩、後輩とラグビー、スポーツのバックグランドは様々、花園出場の達人から小生のように初めての者まで個性溢れる人達にめぐり合いワイガヤと練習や合宿をやり、日常は学校よりも評定河原Gと夜の一番丁で日々を過ごした。

苦

沢山あるがまずは田口監督である、明治大学の北島大監督に劣らず、球を持ったら突っ込め、真っ直ぐ走れ、スポーツ的に頭の悪い集団なのだから単純が一番が指導理念で、走ること、基礎プレーの繰り返しと大変なことであった。もう一つは2回生の時部の財政が悪く、北大との定期戦遠征に仙台・札幌を鈍行で往復したことであろう。仙台から札幌まで24時間費やし、おまけに試合前

夜は恵迪寮で泊まり朝の食事のそっけ無さに、腹が減っては戦が出来ぬと主務への不満ぶつぶつであった。でも今では苦も楽しい思い出である。

備

学部のクラスメイトとの交流もあるが、運動部での活動は苦あり楽ありが山ほど有って、特にラグビーは楕円球の転がりに無限の教えを与えられたようで最高のものである。

こうしてS37年無事ラグビー部精密工学科を卒業した。

社会人ラグビー時代

日立那珂工場に入所し、ラグビー部はあったが大卒ラグーマンは初めてとのことで我ながらチーム作りに仕事そっちのけで気合が入った。当時茨城は高校では水戸農、社会人では日立鉱山本山、日立製作所日立が2強で何とか勝つべく挑戦したかった。工場幹部の理解も得て、早速人員の補強に乗り出し3年後から3強に加われた。その後関東社会人リーグ3部へ入会が許され東京の在チームとの対戦が出来、メンバーへの大きな刺激とすることができた。1年で2部昇格し、更にチームの若い連中もより洗練されたチームとの試合で多くの体験をし成長した数年間であった。楽しみが多くなれば、苦(厳しさ)の練習にも力が入り、そして美のプレー・試合になることを実感できた。また関東公認レフリー(多分90番台だったと思うが)の夏の講習、菅平では大西先生/岡先生/綿井先生のラグビーに対する情熱、ラグビープレー展開での戦略理念に関するお話などを伺い、チームカラー、伝統作り・伝承の大切さを教えて頂いたのを思い出す。

美

指導者、レフリー等の立場でラグビーに接するようになり、ラグビーは楽・苦・美だと感じ、理解できるようになったのは、若い時の自身の成長であったらと思う。

いまラグビープレーの原点は

自分でやるスポーツは野原で小円球を10cm強の穴に運ぶことに熱中している。かように大半のスポーツのゴールはグラウンド幅より狭く、中央部に位置しているが、ラグビーのみが唯一ゴールはグラウンド幅を持ち、後ろへのパスと言

う原則と合せて特質されるゲームである。この幅のあるゴールラインに着目した攻撃戦術としての種々の理論が生まれては来ていると思うが、組織プレー的ではこの有効活用には不十分と感じてきた。その意味で今度のオールジャパンがフランス風に個人の活性のあるプレーをの方向性には賛成である。ただ身体機能に加えて頭の良さも評価されるようになり、選手は大変だろうが、この時本当の美のゲームが見られるであろう。期待したい。

最後に

長く続いてきた8大学OBラグビー大会が今後とも皆が愉しめるご尽力を関係者、後輩各位によりしく願います。

生きるとは楕円球の転がり、2つの点が付かず離れずに。

ねんりんピック 福岡 2005 遠征記

小樽商科大学(昭和 46 年卒) 佐藤 貞直

1. 平成17年11月12日から14日にかけて「第18回全国健康福祉祭 福岡大会」が福岡県宗像市にあるグローバルアリーナにて行なわれ、東京都代表である不惑のメンバーとして参加したがこれはその遠征記です。この大会は通称「ねんりんピック」と呼ばれ、今回で18回を数えますがラグビーが大会種目になったのは今回で3度目です。開催県が種目を決めるので今年の静岡大会では残念ながらラグビーはありません。
2. 大会のメインテーマは「活力ある長寿社会の形成」で高齢者の健康保持・増進、生きがいの高揚であり、わが不惑チームはまさに社会の模範となっていることを実感した遠征でした。ちなみに守田先輩(九大)が大会参加者の最高齢者であり、また参加者のチーム平均年齢が不惑は64歳で参加24チーム中4位ということで閉会式において表彰されました。守田先輩は「大好きなラグビーができてありがたい」と大きな声で挨拶すると会場からは大拍手でした。宗像市長が「守田さんのトライに元気を貰った」と挨拶すればこれもまた大拍手。不惑の一員としてその場にいた我々は大いに気持ちを良くしました。

ちなみに4位の賞品はそれはそれは大きなメダルで文鎮として使えるほど重く皆の不評を買いました。



3. さて試合ですが対愛媛思惑戦は13日のメインイベントとして常陸宮殿下・妃殿下ご夫妻のご臨席を賜り、関係者を中心とした大観衆？と地元スポーツアナウンサーの実況中継のもとで行なわれ、我が不惑は御前試合に大いに張り切り 49:0 と見事愛媛を完封しました。特筆すべきは田中ゲームキャ

プテンのグラウンドを縦横無尽に走り回る大活躍と清野先輩の 2トライ、永吉先輩の右オープンに展開したきれいなトライ、そして守田先輩のボールを持って 20メートル突進、加賀さんのぶちかましタックル。

それぞれがその場面で名前を会場に実況放送されるものですからその度に不惑応援団からは大拍手。加賀さんの奥様は地元宗像出身だそうで故郷に錦を飾ったことになるでしょう。久我選手(九大)もスクラムハーフで活躍しました。

また放送といえば活躍した選手名を予め提出した名簿を元にアナウンスするのですが、田中さんの背番号は激戦の為に187の数字が87となってしまう正しく「田中選手」とアナウンスされなかったのはご愛嬌。

4. 翌 14 日の対玄海オールドパイレーツ戦は前日の愛媛戦と打って変わって大苦戦。相手チームには不惑メンバーでもある牧さん、薄さんがおり、また前日の房総戦に負けているので若い選手を大補強、流石というか地元の利というか勝利にける意気込みがすごく、試合開始直後の守田先輩の 50メートル独走トライ後はスピード豊に攻め込まれ、防戦一方、かろうじて田中さんがトライを返して 12:21 で前半終了。しかし不惑は反撃し後半の圧巻は平島会長のトライ。中央付近から左オープンにボールがテンポ良く廻りボールを手にした平島会長はタッチ際を快走、相手タックルをかわしてインゴールにダイビング、見事なトライでした。試合結果は 24:49 で負けましたがポイント、ポイントで不惑らしいプレーが出て観戦者の記憶に残る良い試合であった。守田先輩のトライシーンは TBS が昨年 11 月 20 日朝の番組で放映しご覧になった方もおられると思います。大沢親分から「あっぱれ」マークを貰いました。

5. エピソード

(1) 守田・永山先輩のランパス

筋書き通りに行かなかったのが守田先輩のトライ演出シーン、田中キャプテンからボールを貰った守田先輩がシナリオにない隣にいた永山先輩にパス、しかし永山先輩は慌てず守田先輩にリターンパス、うまくキャッチした守田先輩はその後独走してトライ。ノックオンしたら・・・なんて全く杞憂でした。

このランパスを始める前、守田先輩とマスコミの仲立ちなどお世話をしてくれたのが中島君(小樽・49年卒)、大阪へ昨年4月に転勤してからシニアラグビーに目覚め、大阪の名門倶楽部である惑惑倶楽部に入り、ね

んりんピックには出場しないにもかかわらずはるばる福岡まで応援に駆けつけてくれました。ありがとうございました。

(2) 人材派遣

今回宗像でお会いしました不惑メンバーは福岡の牧さん、薄さん、内山さん、山内さん、木下さん、鹿児島丸田さん(九大)、大阪の田中さん、京都の高濱さん、兵庫の久保さん、千葉の岡本さん。それぞれチームの中心選手として大活躍でした。勿論自分の試合が無いときには不惑の応援に来ていただきました。また13日の博多前夜祭では内山さん、薄さんにセットして戴きました玄海灘食べ尽くし・呑み放題パーティーは大好評でした。なにしろ山田先輩が満足と言っておりましたから。福岡ファンが増えた事請け合いです。

6. 終わりに

夏合宿並の2日間連続の試合は少し身体にきついが実に楽しい遠征でした。中々会えない丸田さん(九大)と会えたり、博多の美味しい料理を楽しんだりとても充実した3日間でした。最後にこのツアーコンダクターを努めてくれました原口さんには感謝です。

大会前日に博多入りしてバスチャーターをし、13日の開会式、監督会議に出席と獅子奮迅の活躍、本当にご苦労様でした。参加者の皆さんお疲れ様でした。



写真説明 上:不惑チーム 後列右から3人目が筆者
後列右端が久我選手(九大)

下： 歓談する守田先輩(九大)向かって左



以上

偉大なる赤パン

海洋大 OB 蓮見正樹

ラグビーを始めて、早いもので 15 年目のシーズンを迎える。15 歳で始めたので、今年が終われば、ちょうど人生の半分をラグビーとともに過ごしてきたということになる。

思えば、始めたきっかけは実に不誠実だったように思う。元タインディア派の”もやしっ子”。争うことが嫌いな性格。運動会では頑張るけれど目立つことは無い。そんな私なので何となく高校では運動部に入ろうと心に決めたものの、中学で何もやっていなかっただけに、中学から同じ種目をやり続けている者には勝てないと弱気に考えた。結果、中学に無かった運動部として消去法で残った一つがラグビー部。そして部室を訪れた(勧誘されなかったのだ)。

始めてみたのはいいけれど、いきなりの怪我でどうにもならない。後で聞いたところによると、周囲の人たちは、そんな私を見てすぐに辞めると思ったそう。残念ながら(?)その期待を裏切り、3 年の秋までラグビーを続けた。そして大学。高校でラグビーをやっている、まだ”もやしっ子”だった私は、またしても勧誘されることがなかった(!)が、入部。大きな怪我もあったものの、卒業後も縁があって今まで続けることが出来ている。

とはいえ、体力的に辛くなるのは近い将来と思う。学生時代には考えられなかったことが起きている。まず、決して超えることの無かった Max 体重をいとも簡単に突破(そして戻らず...)。次に、柔らかくなったお腹。満腹時には胃の拡張に腹筋が負けている。最近肩も脱臼しそうでヒヤヒヤもの。先日の試合では何とか止められたものの、頭の感覚どおりのディフェンスができていない...。そろそろラグビーを楽しむ年齢に近づいてきたのかもしれないが、そう思うようになった時、目標となる先輩がいる。それは、全ての赤パン戦士たちだ。

幸いなことに、海洋大の OB には皆さんご存知の「水産ラガー」という身近にして偉大なラグビーチームがある。私はご縁があって一緒に練習や試合に参加させていただくこともあるが、この偉大さも、最近わかってきたようなものだ。たった数年で上記の衰えを痛感しているのに、果たして定年を超える 30 年後も、この先輩達のように走り回ってラグビーを出来るだろうか?とよく思う。

これの答えは、「継続すること」だそうである。これから、仕事もより忙しくなるだろうし、今以上に体も衰える。しかし、続けるのだそうだ。そういえば、今年で

15 年目であることも、継続の一つ。高校の同期は全員スパイクをグラウンドに置いてしまったし、大学の同期も、現役プレイヤーは残すところあと半分。まず、健康でいることが第一条件ではあるが、30 年後、私が「偉大なる赤パン」となれるように、楽しみつつ、怪我には気をつけ、でも、怪我は恐れずプレーしていきたい。

現赤パンの諸先輩。これからも、その偉大なる背中を追いかけてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いします。

背中を見て

九州大学

昭和 46 年卒 丸田 堅次

ラグビーを始めて約 40 年になる。学生時代のウイングとしてのラグビー。走ること。トライすること。タックルして相手のトライを阻止すること。いろんな課題を与えられ、一生懸命に頑張った。

社会人になってプロップにコンバートされたラグビー生活。学生時代 1 回も組んだことの無かったスクラム。真夏の合宿のスクラム練習の途中でふっと眠くなり気がついたら病院のベットの上。その日ぐらい休ませてもらえるかと思っていたら、京都大学アメフト出身の近藤コーチから、直ぐにグラウンドに来いと指示され、午後の練習に参加。

三重国体を期に関西協会の B 級レフリーの試験を受けかろうじて合格。レフリングという世界も知った。あの頃は自分の試合をする前やした後に、東海社会人リーグの笛をたくさん吹かせてもらった。夜勤の中日でも仕事もラグビーも良く頑張ったものだと思ふと自分を褒めたい。

もっとも人生観が変わったのは、惑のラグビーを知ったこと。九大の守田先輩から誘われて、「不惑倶楽部」に 39 才で入部。ラグビーが好きな仲間、先輩方との出会いがあり東京のラグーマンや試合で出会う相手チームの方々との出会い。そして友情。この頃、六大学 OB ラグビー大会に参加しその輪がどんどん広がっていった時期でもある。不惑で 10 年経験して会社の転勤で三重県の日吉市で惑のラグビーに参加。また、不惑にいたときに知り合った名古屋の「東惑倶楽部」にも誘われ、遠征や親善試合を堪能。

会社を辞めて鹿児島に帰ってから、「桜惑クラブ」の仲間たちが大歓迎してくれた。また、福岡の「迷惑倶楽部」の方たちからも一緒にやろうと誘っていた。これらの中で、三重の惑チームで後輩の人から、「丸田さん、我々は丸田さんの後ろから追いかけているから。鹿児島に行ってもラグビー頑張ってください」。今までどちらかというと、むしろ自分のほうが先輩の背中をみて頑張ろうと思っていた。いつの間にか、自分の背中を見てくれている人がいたということで感激。58 歳の今までラグビーを続けていけるのもこの一言があったから

かもしれない。

振り返れば、三交代勤務をしながら四日市の小学生にラグビーを教えていた頃。緑地公園の少ない広場で思い切り子供達と走った頃。最初は泥だらけになって洗濯物が大変とお母さんに叱られると泣いていた男の子。その子が次の練習日に、「お母さんに褒められた。もっと泥だらけになってもいいから頑張renaさいと言われた。」

また、家内の弟の家に遊びに行ったときに、男の子二人が、ラグビーのパスを教えて、タックルを教えて纏わりついてた。その二人が高校に進学しラグビーをはじめた。特に上の子は、四日市農芸高校で三年間花園に出場し、今、早稲田で頑張っている今村君とセンターを組んだ。彼の父(私の家内の弟)から、鹿児島にいた私に涙ながらに電話をくれた。「堅次さん、2 回戦も勝ちました。このような感激を味わえるのも堅次さんが子供達にラグビーをやっている姿をみせてくれたからだ。本当にありがとう!」。この時には私も嬉しくてもらい泣きをしました。「あの子達も私の背中をみてくれていたのか!!」と。

その外、秩父宮で行われた不惑倶楽部と桜としたの会(オールブラックス・ジュニアを破った選手たちで結成しているチーム)と試合をしたときに見学に来ていた私の姉の長男が大学でラグビーをはじめた。大学院のときにイギリスに渡ってダーラムという倶楽部に参加。そのウイングで活躍し英国倶楽部選手権で優勝。「ティッケナムで勝った日本人はトールが初めてだとチームメイトから祝福されたよ。」何よりも真っ先に私に報告してくれた。

私には女の子が 4 人で男の子は出来なかった。しかし、4 女に男の子の孫が 2 人いる。この子達がラグビーをしたくなったら一緒に走ってみたい。私の背中を見てラグビーを好きになってくれるかな??

北海道地区大学選手権で優勝を目指して

帯広畜産大学
緑白クラブ

今年の春はどうも例年と比較して不順で、少し温度が上がりグラウンドが乾いてきたなとうれしがっていると次の日は雪が積もる状態です。それでも春の雪らしく融ける時間は早く今は残り雪も日陰のみになり少しずつですが、春の気配が色濃くなってきました。

北海道地区の大学選手権は1部には残留していますが、戦績は決してオープンにできる状態ではありません。最初の2年間は1勝もできず、入れ替え戦で勝ちやっと残留が決まる次第です。入れ替え戦になると今まで見たことのない迫力のあるプレーや充実した気力が漲るのです。リーグ戦の時にそれを出せと何回も言ってきました。良く言えば崖っぷちに強いことになるのでしょうか。しかし勝つことの喜びを最後に味わうことの良さもあるのでしょうか。卒業生はこの喜びがすごく印象的です。

そして昨年はリーグ戦で記念すべき1勝を手に入れることができました。しかし、入れ替え戦にまたもチャレンジ。入れ替え戦は今まで勝ったことがないチームで緊張感が漂う中で試合が始まりました。この日はいつもと違って試合が始まって早くにトライが取れ、出足の良いキックオフでした。いつもスロースタートで点を取られてそれを追いかけてもう少しで逆転できそうなときに非情にもノーサイド。あそこであれを防げ、あの時にパスミスがなければと反省しきり。そして、後半は相手チームはすごい迫力で攻めてきました。防戦にまわり1トライ1ゴールで同点まで追い込まれました。見ている者には緊張した良い試合を提供し、関係者には時間が早く経てと祈るばかり。ノーサイドのホイッスルに感謝。今まで勝てなかった相手に勝てた。現役もOBも嬉しかった気持ちを共有できました。本当に嬉しいノーサイド。

今年は国立3校(北大、小樽商科大、帯広大)に私立3校の戦いです。リーグ戦は上位3校が定位置になり、下位3校がいつも入れ替え戦を戦う構図ができつつあります。これを打開する必要があります。どうしても今年は入れ替え戦はごめんです。時間も費用も余分にかかるし、イヤな緊張は避けたい！それが今年のストレートな気持ちです。

今年は国立大学が3校勢揃い。他の地区ではないリーグと理解しています。3校が安定して残ることが大きな使命です。そのためにはお互いに情報を交換し、強くなるための練習やコーティングが必要です。横井様の来道の時には小樽商科大にお願いしてスクールに参加させていただくことを希望しています。

今は新人獲得に奔走しています。有望な新人が入部したとの情報もあり、楽しみです。

強いフォワードにボールを落とさないボックスがテーマです。強くなりたい！これはどこのチームも同じですが、3年間の経験からその思いは人一倍強い。

小樽商科大学様 創部80周年おめでとうございます。今後もますますのご発展を祈念し、また祝賀会には参加させていただきます。

以上

FOOTBALLへの拘り

名大 昭和52年卒
浅野利三郎

FOOTBALLといえば、サッカー・ラグビー・アメフトの総称なのは、ご存知のことと思います。では、その成り立ちは??、これも、ラグビーを愛する八大学OB大会に参加の皆さんは、良くご存知とは思いますが少し整理したいと思います。

1. インターネットで調べたFOOTBALLの起源

1.1 「フットボール」の起源

「フットボール」そのものの起源はいくつもの説があります。英国で生まれたという説が最も有力ですが、詳細は特定できていません。中には、「戦争で勝った時に敵将の首を蹴ってお祝いしたのが始まり」という説もあります。

1.2 サッカーの起源

「サッカー」誕生以前、英国では各地で「フットボール」が行なわれていました。このフットボールは、統一されたルールのもとで行なわれていたものではなく、それぞれの地域や団体でいわゆる「ローカルルール」で楽しんでいました。1863 年にアソシエーション(association)と呼ばれる協会が誕生し、フットボールのルールが統一され、アソシエーション・フットボール(association football)が確立されました。この俗称として「サッカー(soccer)」と呼ばれるようになり、定着しました。

1.3 ラグビーの起源

「ラグビーはサッカーから誕生した」と考えている方が結構いらっしゃると思いますが、正確にはそうではありません。前述した協会「アソシエーション(association)」が発足する以前の 1823 年、ラグビー誕生の発端と言われている、ちょっとした事件がありました。有名なエリス少年のエピソードです。英国のパブリックスクール「ラグビー校」で、フットボールの試合中の出来事。ウィリアム・ウェブ・エリスという少年が突然ボールを手に持ちゴールに向けて走り出しました。当時のフットボールのルールは地域によりまちまちで、一部手を使う場面もあったとは言え、エリス少年の行動には周囲が驚きました。ただ、これが意外にも「面白い」と評価を受け、ラグビー誕生のきっかけになりました。こうして、

一方でサッカーのルールがまとめられる中、ラグビーは独自の進化を歩んでいったのです。

1.4 アメフトの起源

アメリカに渡ったフットボールは、サッカーよりもラグビーが盛んに行われていましたが、野蛮なボールの奪い合いという形で進化してしまいました。大学を中心に行なわれていましたが、まだ防具もなく、ルールも定まっていないため、「殺人ゲーム」と批判されるようになっていきました。そして 1905 年。ついに大統領が動き出す事態となりました。時のセオドア・ルーズベルト大統領は「安全な競技としてルールを改正しなければ、禁止せよ」という発令を行ないます。その年のフットボールによる重傷者は数百名にのぼり、そのうち 18 名もの選手が死亡しているので、それもうなずけます。そして、ルール改正委員会が発足し、野蛮なスポーツからの脱却が計られました。アメフトは、プロスポーツとしての確立を根底に、エンターテインメント性を維持する形で進化しました。コンタクト(衝突)を規制するのではなく、防具着用の義務付けや、フォワードパスの認定などの形で安全性を向上させました。

2. FOOTBALLとの付き合い

なぜ、FOOTBALLの起源を書いたのか、それは、「サッカー、ラグビー、アメフト」の3種のFOOTBALLを楽しんでいるからです。

2.1 サッカーとの付き合い

最初のFOOTBALLとの付き合いは、サッカーでした。小学校6年の時にはサッカーの小学校対抗試合があり、授業開始前に朝練をして対抗戦に勝利しました。中学校では、一宮大会・尾張大会には勝利しましたが、惜しくも愛知県大会は2回戦で敗退しました。丁度、メキシコオリンピックで日本が銅メダルを獲得した時期になります。また、会社に入ってから、時々助っ人で会社のチームで汗を流し、現在はJリーグのテレビ観戦をしています。

2.2 ラグビーとの付き合い

一宮高校ではサッカーに物足りなさを感じて、ラグビー部に入部しました。当時のチームは弱かったものの、以前は全国大会にも出ていた伝統ある学校でした。3年生の時、正月の商業高校との定期戦に受験勉強の息抜きのつもりで応援に行ったところ、ラグビー部部長から「OB戦の選手が足りないから出る。」と言われて、急遽、3年生ながらOB戦に出た思い出があります。

名古屋大学では上級生が少なく、1年生からフル出場、4年の時には全国

地区対抗戦で小樽商大に勝利し、帝京大学に惜敗しました。大学院の2年間は後輩の面倒を見ながら、一宮クラブで汗を流していました。

鹿島建設に入社後は、会社のチームで一時は関東社会人2部でプレーし、学士ラガークラブでは東京都クラブ選手権にも出場していました。そして40歳から不惑倶楽部に所属し、現在は紺パン若手として、先日も三惑大会で花園ラグビー場の芝の感触を楽しみました。

2.3 アメフトとの付き合い

35歳になろうとした時、会社が日本一を目指すアメフトのチームを創部しました。この時、有望新人の入社前に「兎に角チームを立上げよう！」と言うことになり、初めてヘルメットをかぶりました。35歳になって初めて試合に出場し、4年間選手を続け、東京ドーム・横浜スタジアムでパントを蹴ったことが良い思い出となっています。選手引退後はチーム審判員として現在も活動しており、年間10数試合の笛を吹き、鹿島 DEERS の反則記録や試合速報等を作成しています。親父の影響もあって、息子が大学4年で主将に、娘が別の大学1年でマネージャーをしており、家内と大学の試合応援をしています。

3. ああ！ FOOTBALL

物心の付いた時から50歳を超えた現在まで、常に「手の届くところ」、否、「足の届くところ」にFOOTBALLがありました。今後もFOOTBALLを友にして、人性を楽しみたいと思っています。

以上

西陵ラグー全国組織化のご紹介

長崎大学 昭和45年卒

伊藤 正

長崎大学が平成 11 年に八大学に参加して 7 年が経ちました。この間 OB 各位のご協力と各校皆様のご理解で親善試合等各イベントでの活動を継続しています。西陵ラグーは学部がある地区の名前をつけた経済学部ラグビー部の OB 会で、八大学で長崎は現在参加の経緯から経済学部が中心となっています。最近までは年に 1~2 回 10 数名が集まって新年会忘年会などの会合を行う程度の会費の蓄えもない地域毎の OB 会でした。

ここ数年八大学の各校が創部 80 周年を迎えていますが、当校は昭和 2 年(1927 年)生まれで現在 78 年です。しかし、前述のように我が OB 会にはこれまで明確な組織はありませんでした。過去何回か全国統一の OB 会組織化が期待されましたが実現できなかったのです。2003 年に関西地区の OB 会から再び全国組織を作ろうという機運が起こり、その年の秋、大阪から先輩が上京し検討が始まりました。関東地区は OB の人数も多い上に、八大学 OB 会に参加して活動が活発化しており、東京から長崎へ単身赴任している若手 OB が現役の支援や状況報告などを活発にやってくれるようになり、関東が中心となることが必要でした。今回は名簿作り等事務関係を関西若手が担当し、統一案作りは関東地区先輩が中心となって全国統一組織化案を作成し各地の同意を得ました。2005 年 1 月 29 日に関東地区において、また同日関西において、それぞれの地域の発足の会が行われました。その後母校経済学部が 2005 年に 100 周年(明治 38 年 1905 年創立)を迎え記念式典(10 月 8 日)が行われるのに合わせて長崎で全国総会を行うこととなり、2005 年 10 月 9 日に関東以西の OB が集まり、懐かしの石ころグラウンドで OB と現役の試合を行った後、長崎新地の中華街に現役 15 名を含む 81 名が集まり「全国総会」が行われました。会では今後の現役への支援拡大と OB 会の活性化を誓い、80 歳台 OB から現役まで大いに懇親を深めました。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

<西陵ラグーOB 会のご紹介>

会の名称:「西陵ラグーOB 会」

会員の資格： 長崎高商、長崎経専及び長崎大学経済学部ラグビー部に在籍した者及び会又は支部の目的に賛同し、会又は支部に認められた者。

構成： 各地区におく(現在の支部は、関東、関西、九州、東海)。

会の目的： 会員相互の親睦と現役学生の支援、他団体との友好を通じて、OB 相互及び現役学生との密接な連携を保持する。

役員： 会長 1 名、副会長 2 名。支部役員は別途各支部細則により定める。

現在の会員： 220 名

関東支部

☆支部長： 松尾 栄(昭和 30 年卒)

☆関東支部における役員構成の特徴

- ・卒業年次により全体を9つのユニットに分け、ユニット幹事をおいている
(近いところが連携を密にすることで、全体の連携を強くする)
- ・八大学 OB 会担当をおいている



(昭和45年卒 桑原君が全国総会に寄せてくれた版画)

この記事は、足立鉄生・佐々木和行両氏(いずれも昭和 42 年卒)が学部同窓会誌「東京瓊林」に寄せられた記事をもとに作成しました。

編集後記

昭和 46 年 九大卒 丸田 堅次

ホームページ掲載方式に変更になり、2 回目となります。

今回の締め切りが 4 月 29 日ということで連休中の編集になりました。

頂いた投稿、資料をほぼ掲載できました。

次回からは、八大学 OB のホームページを立ち上げていただき、いつでも
見れる状態になることをご検討願います。

5 月 13 日に皆様とグラウンドでお会いできることを楽しみにしています。

2006.5.8